

公孫樹

東京都立
豊多摩高等学校
令和5年7月
第61号
東京都杉並区
成田西2-6-18
TEL 03(3393)1331



「ポストコロナの時代」

「あなたの色、出せていますか?」

学校長 板倉 和則

マスクを外す機会が増えました。正門に立って、道行く人に二度、三度と振り返られてなぜか罪悪感を覚えることがありました。最近私の顔にも慣れてくれたようです。さて、毎朝校門で皆さんを迎えています。が、「なんで、そんなことをするの?」って思っている人もいるかもしれません。だって、自主・自律の学校! 自分で横断歩道だって渡れるよ! ですって? まあまあまあ。今日は私の話。

あそこで何をやっているのかと言うと、いつも登校する皆さんの顔を見て元気をもらい、時には怪我をした人を気遣い、遅刻しそうな人に「あと二分三十秒! 頑張れば間に合う!」と声をかけ、ジャージで登校する人、元気に挨拶してくれる人などを数えていたりします。もちろん、交通整理をし、自転車の乗り方の注意をしたりもします。それが楽しいんです。

近所のおばあちゃんが「校長先生頑張っているから」と、チョコレートをくれました。散歩中のワンちゃんにも挨拶します。「雨の日なのに大変ですね」と声をかけてくれる人もいます。雨の日も、風の日も、暑い日も、寒い日も……どんな日だって続けてきました。そんな日こそ大切なのです。なぜなら、そんな時だからこそ生まれるコミュニケーションが

あるからです。

確かに、余計なことなのかもしれません。やらなくて済むことなのかもしれません。でも、あえて余計なことをやってみる。それが、私らしさ、私色なのかなと思っっているのです。だって、そんなことをしなければ、他の人と同じじゃないですか。

Touch the Sky! TOYOTAMA!



「部活動の顧問」

副校長 昆野 弘幸

本校で開催されている企画に「保護者と教師の語る会」というものがあります。保護者の方々と教職員がいくつかの懇談グループに分かれて、学校生活や生徒のこと、その他さまざまな話題について気軽にお話しできる会です。先日行われた同会で、私もひとつの懇談グループに参加させていただきました。大学の選び方やオープンキャンパスなど進路に関わ

ること、ICT機器の活用や学習方法、学校の施設・設備などと共に、部活動のことも話題になりました。本校の部活動は運動部・文化部いずれもさかんです。部活動を行うことによって、人間関係が築かれたり、向上心が沸いたり、自己肯定感が高められたりする効果があると思います。

さて、保護者と教師の語る会で、私がかつてどのような部の顧問をしていたのか、ご質問を受けました。そこで本稿では、私が主顧問をしてきた部のうち、特に三つの部にしばってちよつとした思い出話を綴ってみたいと思います。

まずはソフトボール部。大会などの公式戦に顧問として引率をする、自分たちのチームの試合が終わった後、次の他校同士の試合の審判(塁審)を依頼されることがよくあります。プレー中の瞬時の判定をするのが苦手な私は、正直いって審判をするのが憂鬱でした。明らかにアウトやセーフとわかるケースならよいのですが、ジャッジが難しいきわどいプレーになると判定に困りました。とはいえ、炎天下の試合で審判をしているとき、インニングの変わり目のたびに生徒が駆け寄ってきて、さっとスポーツ飲料の入った紙コップを届けてくれるという嬉しい瞬間もあったりしました。

次に弓道部。初めて弓道部の主顧問になったときのことでも印象に残っています。弓道の経験などまったくなく大いにとまどいましたが、部員たちからいろいろと教わりながら、少しずつ弓道の世界に慣れていきました。練習では技術的な指導ができず、大会の競技後のミーティングでの助言はせいぜい精神論のみ……部員からしてみれば私はきっと心もとなない顧問だったことでしょう。それでも、数多くの大会引率、夏合宿など、弓道部との関わりはとても濃

いものでした。東京で行われた弓道のインターハイの役員になったときには、他の公立・私立高校の部員や顧問の先生方に支えられながら、運営に携わらせていただくなど貴重な経験もしました。

三つ目は写真部。私は写真が趣味ということもあり、写真部の主顧問は望むところでした。部員たちと文化祭の発表展示に向けて、準備をするのがとても楽しかったです。文化祭では、部員たちがみずから撮影した作品を大勢の来場者に鑑賞していただき、とても嬉しそうな表情をしていました。そんな部員たちの笑顔をみるのが私は好きでした。

豊多摩生には、それぞれ所属している部において、さらに元氣いっぱい活動してほしいと願っています。



「合唱コンクール」皆で奏でる合唱

生徒保健部 川口 大輔

今年度も昨年度に引き続き合唱コンクール当日を迎えることができました。今年度の合唱コンクールはどのような形で実施できるのでしょうか、昨年度と同様に午前・午後の二部制での開催、あるいは二

〇一九年度以前の形で実施できるのか、先行き不透明なまま四月を迎え合唱コンクール係、行事委員会の初めての集会時での学友の姿が思い浮かびます。

「今年度は三学年同時開催で実施したい」という想いがひしひしと伝わってきました。課題曲である校歌、そして自由曲の選曲から始まり、合唱コンクール練習期間が始まりました。各パートリーダーを中心に各パートをより音楽的にまとめあげていく学友の姿に感心させられました。合唱練習期間が始まり、リハーサルが近づいてくると、四月に選曲した曲の楽譜に新たな音をつけ加えたり、表情を変えたいと相談にくる学友が出てきました。

今年度は、四年ぶりに午前の部・午後の部と昼食を取りながらの開催が決定し、開会式から閉会式まで実施することとなりました。行事委員の放送部は昨年までとは違い、白紙の状態から放送原稿を考え、タイムテーブルを作り進めてくれました。

当日では、会場内ではマスク着用ではありませんでしたが、ステージ上ではマスク無しで合唱コンクール当日を迎えることができ、そこには学友の活き活きとした姿がありました。

本番までの間、三学年すべてのクラスが練習を重ねる中で様々な思いがあったかと思えます。今までに選曲していない新しい自由曲を選出したクラスが出てきたこと、コンクール本番までに「私たちの演奏を聴いてもらいたい」と相談にきたクラスが出てきたことは来年度の合唱コンクールがさらに充実したものになるのではないかと予感させます。当日は保護者の皆さまにご観覧いただきました。ご協力ありがとうございました。